

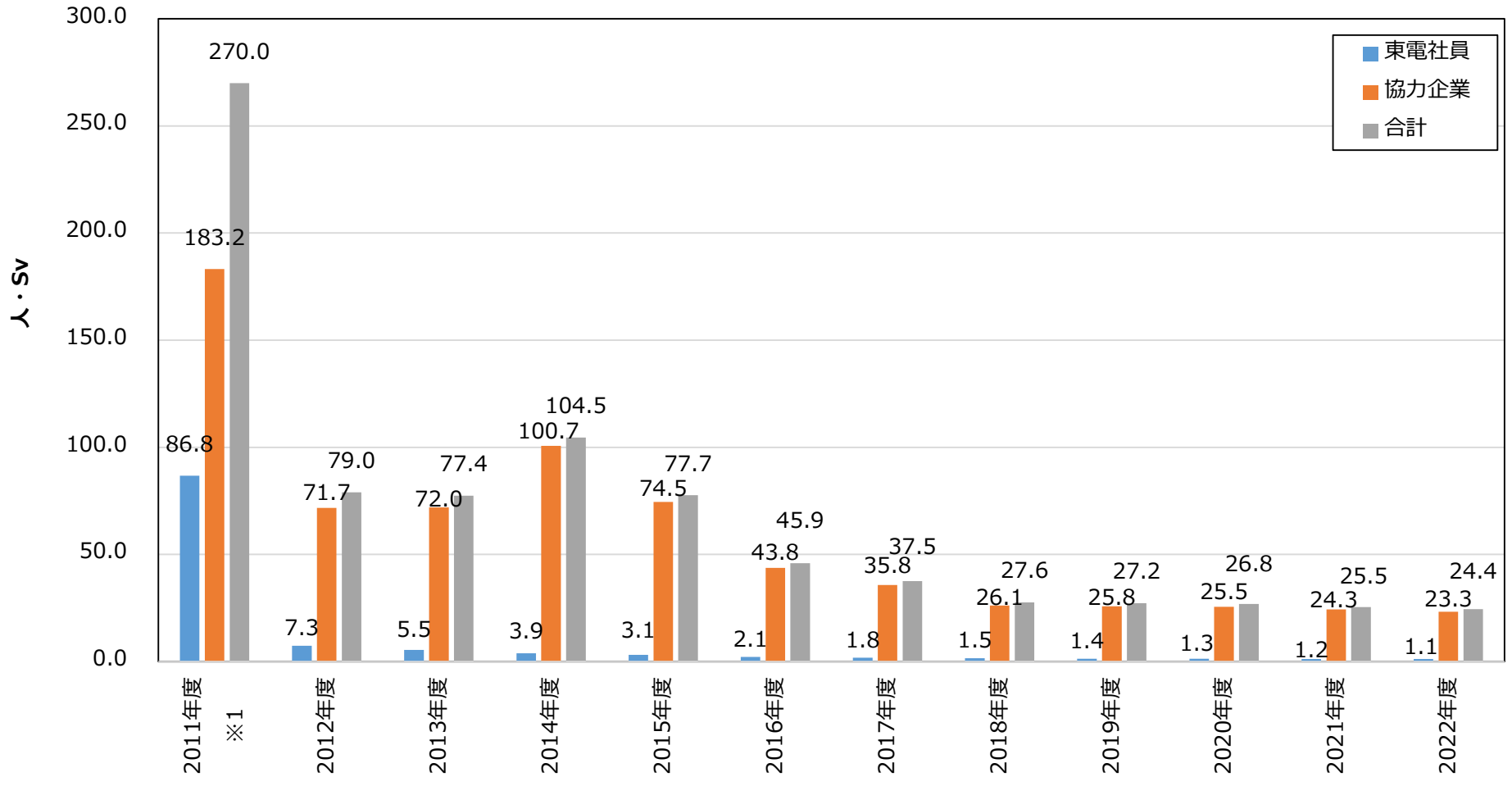
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2023年6月14日

東京電力ホールディングス株式会社

①発災以降の年度別被ばく線量の低減状況（外部被ばく線量）

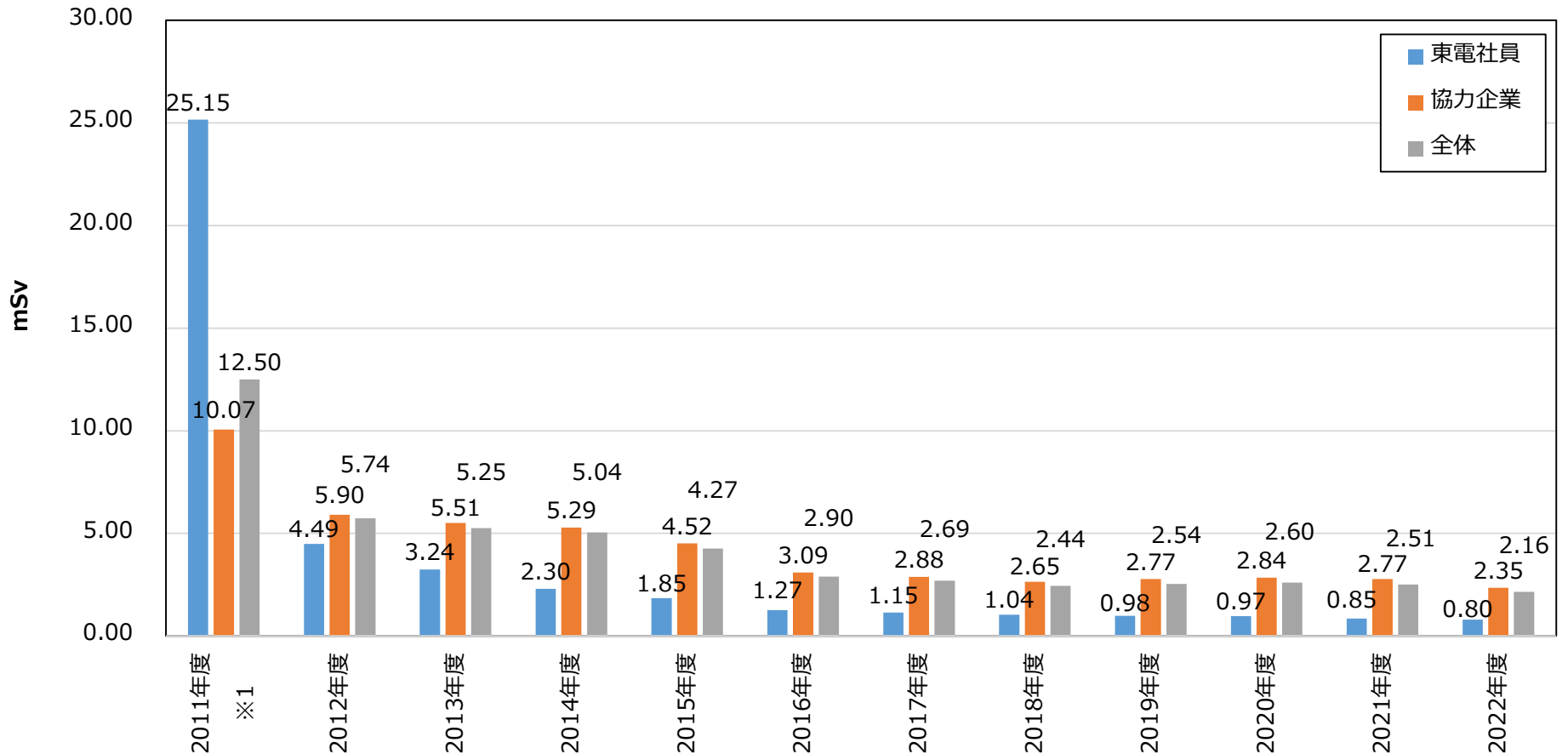
■ 外部被ばく線量は年々低下している。



※1：2011年度は2011年3月を含む

②発災以降の年度別被ばく線量の低減状況（平均外部被ばく線量）

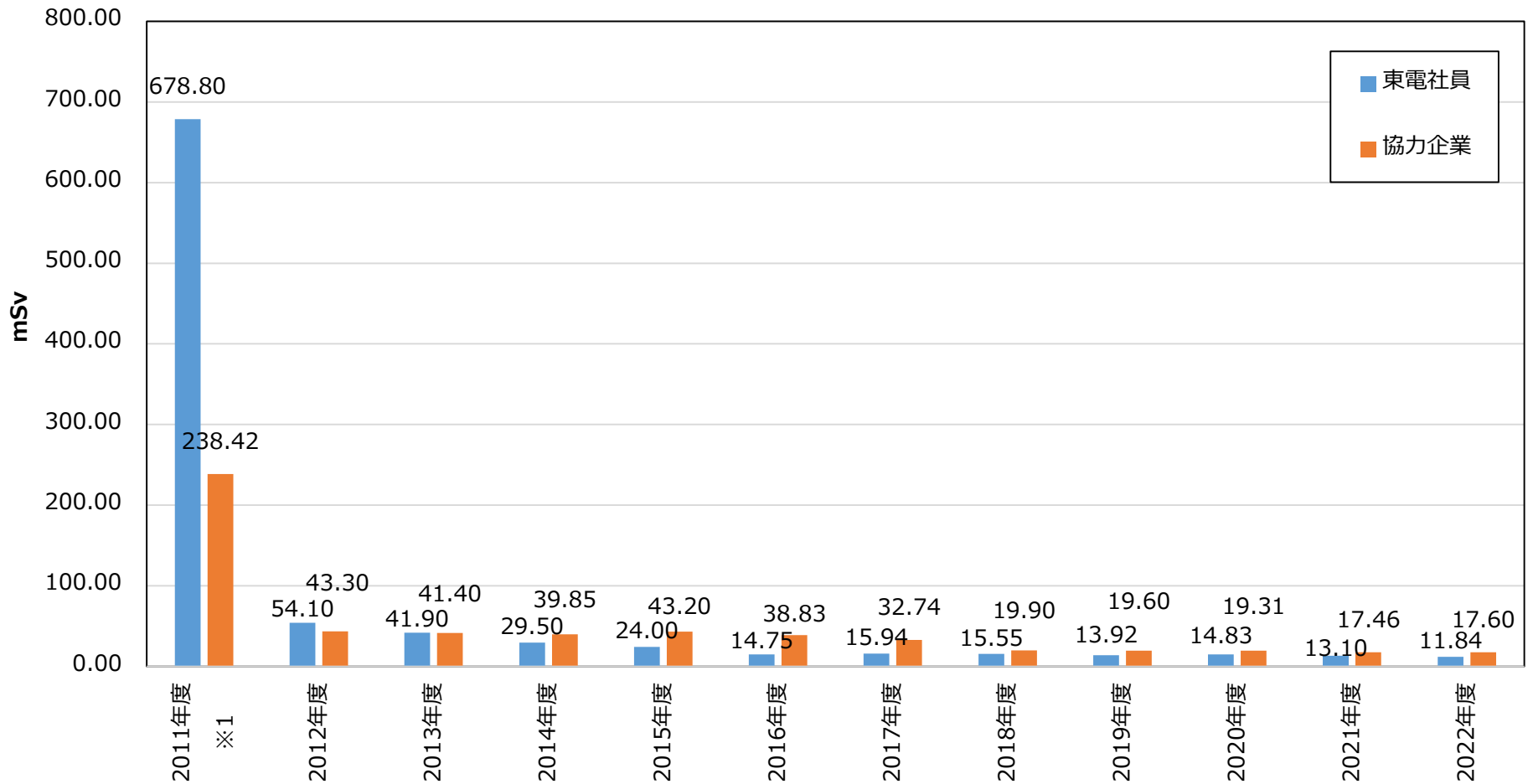
■ 平均外部被ばく線量は昨年と比較して減少している。



※1：2011年度は2011年3月を含む

③発災以降の年度別被ばく線量の低減状況（最大外部被ばく線量）

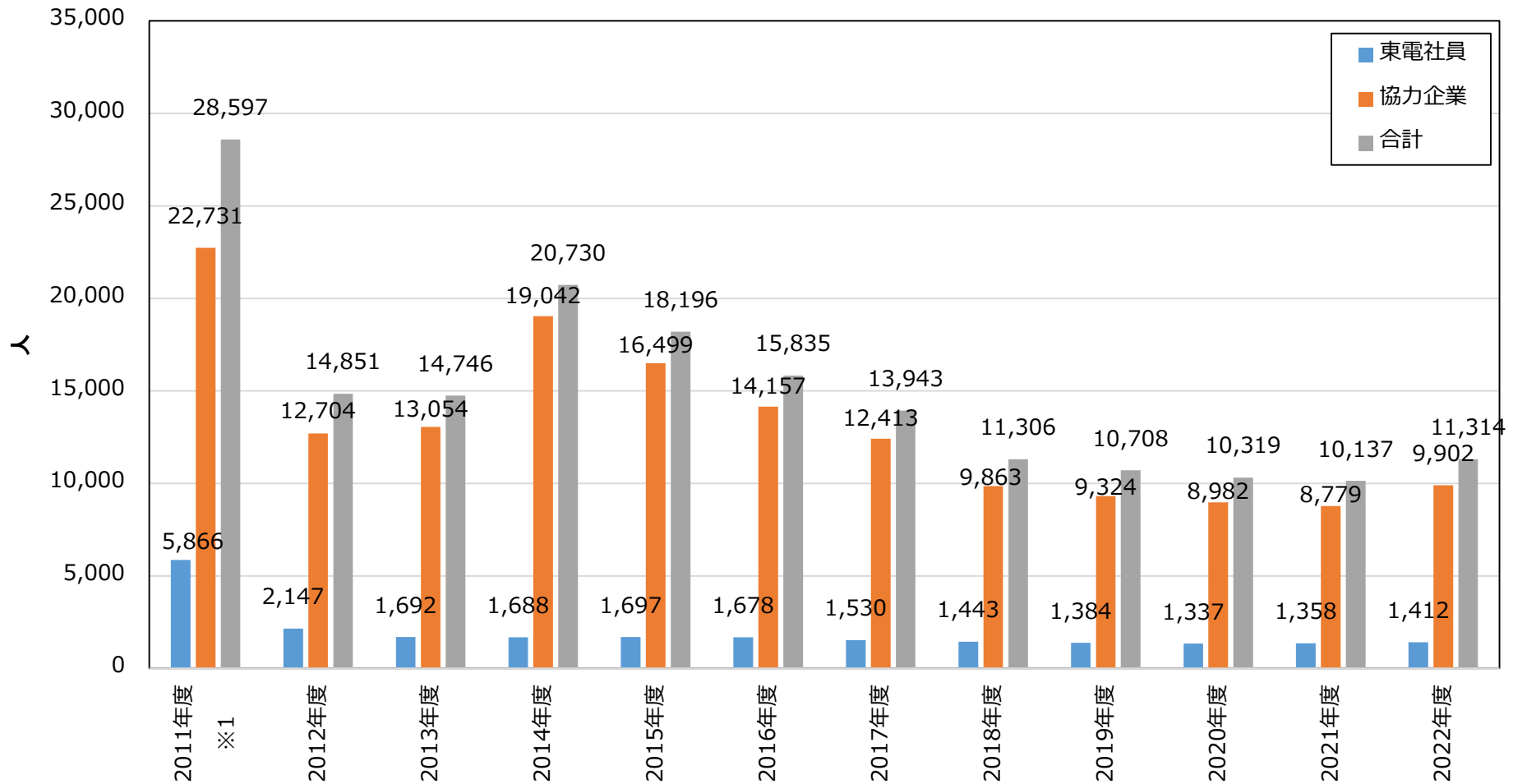
■ 2022年度においては、前年度同時期と同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

④ 発災以降の年度別放射線業務従事者数

- 2022年度の従事者数については、昨年度より増加している。これは主としてALPS処理水関連設備の設置工事等による。



※1：2011年度は2011年3月を含む

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2022年度

区分(mSv)	2022.4月～2023.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	6	708	714
5超え～10以下	50	966	1,016
1超え～5以下	225	2,261	2,486
1以下	1,131	5,967	7,098
計	1,412	9,902	11,314
最大(mSv)	11.84	17.60	17.60
平均(mSv)	0.80	2.35	2.16

○2022年度（2022.4月～2023.3月）に作業実績のある11,314人のうち

11,314人（100%）は50mSv以下

11,314人（100%）は20mSv以下

9,584人（84.7%）は5mSv以下

○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

区分(mSv)	2021.4月～2023.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	4	451	455
10超え～20以下	43	1,380	1,423
5超え～10以下	92	1,234	1,326
1超え～5以下	304	2,445	2,749
1以下	1,127	6,474	7,601
計	1,570	11,984	13,554
最大(mSv)	21.62	34.22	34.22
平均(mSv)	1.46	3.97	3.68

○2021.4～2023.3に作業実績のある13,554人のうち

13,554人 (100%) は100mSv以下

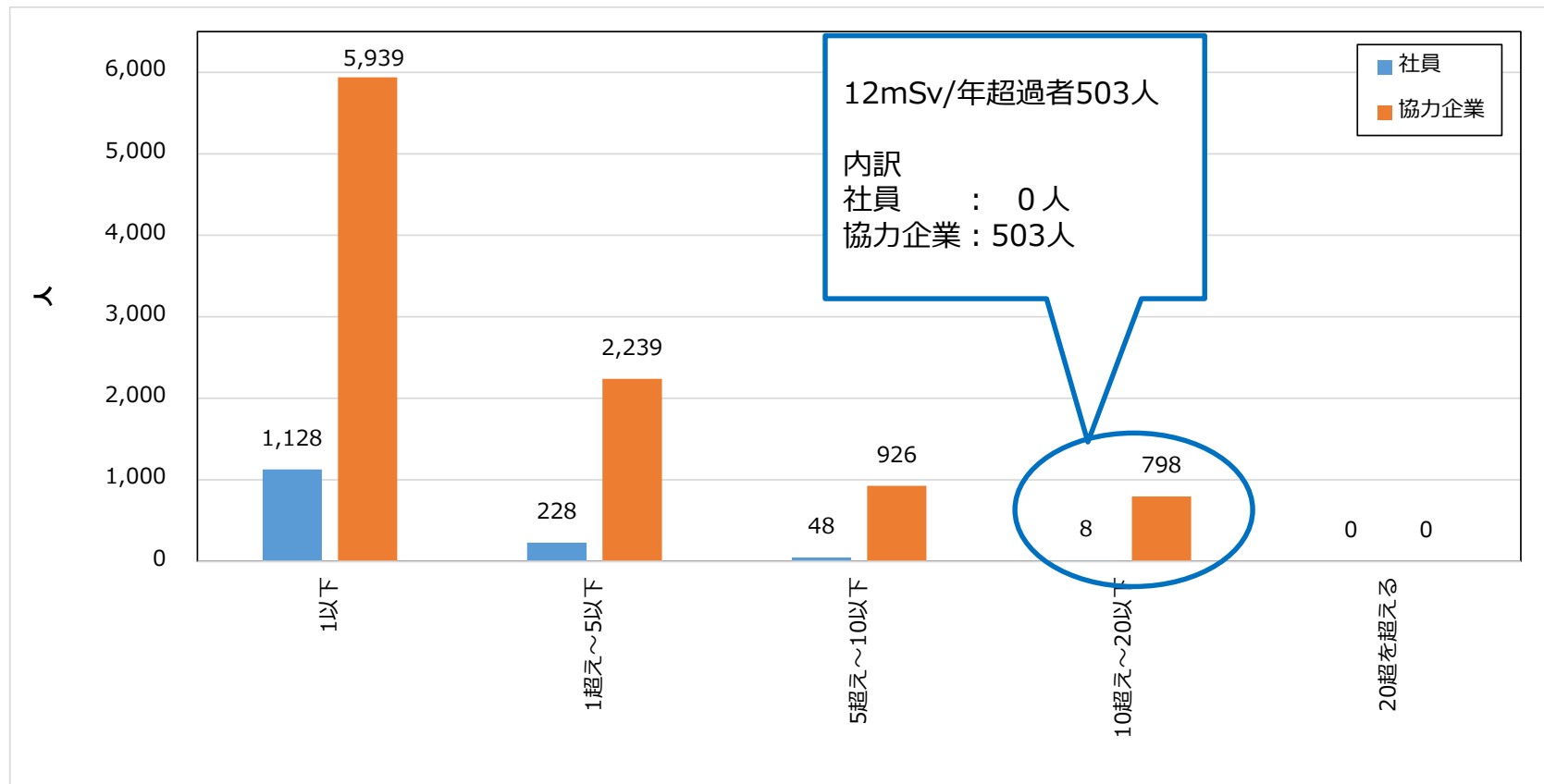
13,554人 (100%) は50mSv以下

13,099人 (96.6%) は20mSv以下

○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

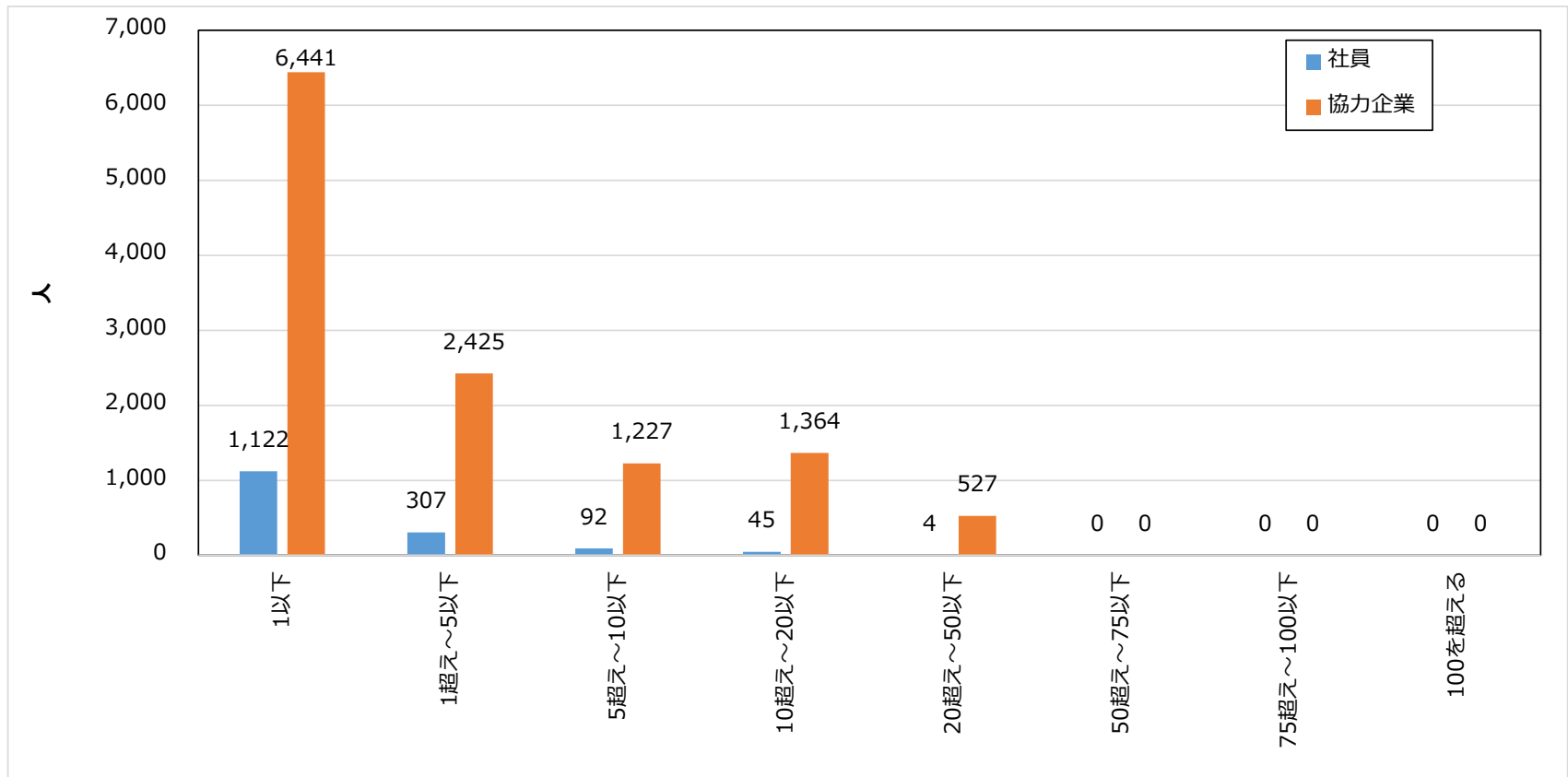
⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2022年度）

- 2022年度の眼の水晶体の最大線量は、19.00mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）で測定開始している。



⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

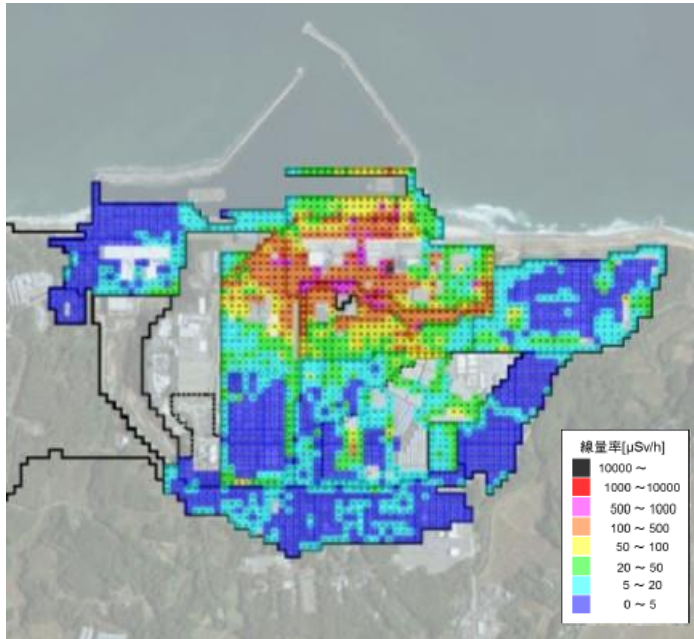
- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、33.2mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。



⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2022年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2022年度

